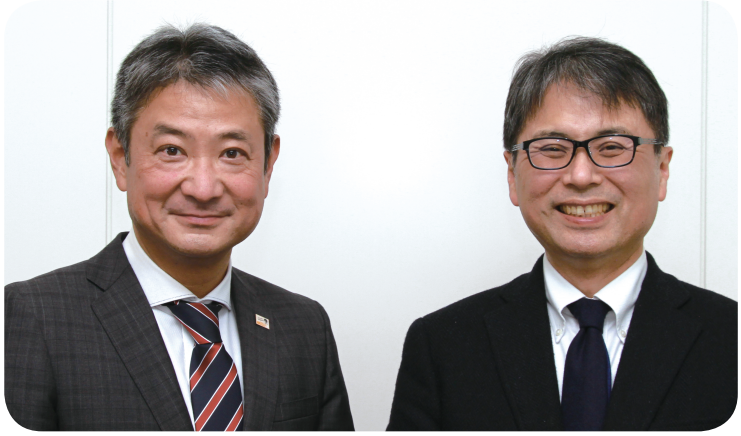
新学習
指導要領スタート！
特活

小学校の先生へのメッセージ

ぜひ，“学びのつながり”を意識してほしい！

長田　先生方には「学びのつながり」を意識していただきたい。それは教科等間の学びのつながりもそうなのですが，小学校の先生の指導は，児童の一生に強い影響を与えていきますから，それを確かめるための1つのツールが「キャリア・パスポート」です。それは一人の児童にとってはもちろん，校種を超えた複数の教師間でつながりを実感するということです。例えば低学年の担任の丁寧な指導が人間形成の基盤になっていることを，高校生になって教え子が，高校の担任の先生が生きた記録から読み取ることができるのです。



「キャリア・パスポート」ができることによって，小学校の1年生の担任からもらったコメントを高校3年生まで持ち上がりますから，何度も何度も子どもたちは振り返るはずです。高校生になったり社会人になったりして，また自分に子どもができたりしたときなども振り返るかもしれません。悩んだときに小学校の先生の言葉に励まされて，元気が出るかもしれません。決して新しいものではありません。今の“宝”を，人生の“宝”にしてあげたいものです。

特活で，学びに向かう集団づくりを！

戦後，作成された学習指導要領試案には，“特別活動によって，教科の学習だけでは十分に達成されない教育目標が達成できる”とあります。日本の教育としては，教科の学習の前にここを大切にしましょうということが特別活動なのです。この部分は言い方を変えると，「学びに向かう集団づくり」なのではないかと思います。学校は個人でも学びますが，集団として学んだり育んでいったりする場面があります。言い換えると，最初に学びに向かう個人や集団をつくることが大切なのだと思います。

しっかりとしたキャリア教育の“要”をつくろう！

藤田　新しい学習指導要領では，学級活動に「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」が設けられ，小学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明示されました。また,これによって，キャリア教育の視点からの小・中・高等学校のつながりが明確になったといえるでしょう。

これまで，小学校におけるキャリア教育では，夢をもつことや職業調べなどの固定的な活動にとどまる傾向が見られました。もちろん，夢や希望は明日を生きていく原動力となるものですから重要です。けれども，子どもたちが将来に向けて夢や希望を抱き，その実現を目指して物事に取り組むことと，「今の自分」のよさや価値を見いだすこととは，密接につながっているものです。この意味で，最も身近な社会である学級や学校において「互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決すること」を大切にする特別活動は，それ自体が，キャリア教育の取り組みとしての意義をもっています。

もちろん，キャリア教育は，教育活動全体を通して実践するものですので，総合的な学習の時間，道徳科や各教科における学習はもちろん，日常的な会話や教育相談の機会などの一人一人を大切にした指導・支援が重要であることは言うまでもありません。学級活動 (3) においては，これら各教科等と特別活動とが往還的な関係にあることを意識し，これまでの様々な学びを振り返りながら，新たな学習や生活への意欲につなげたり，将来の生き方を考えたりする活動をしっかり丁寧に行ってくださることを願っています。